

TakaRa

 宝ホールディングス株式会社

Contributing to the creation of healthy
lifestyles and a vital society in harmony
with nature through fermentation
technologies and biotechnologies

アニュアルレポート **2007**

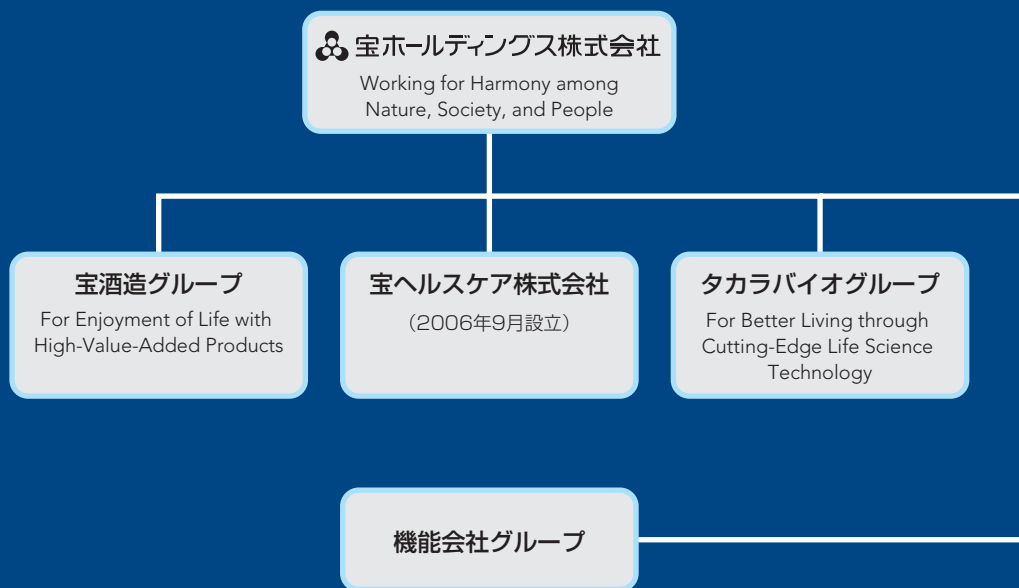
1	株主、投資家の皆様へ
6	特集：機能性食品事業の強化 宝ヘルスケア
8	事業概要：宝酒造グループ
11	事業概要：タカラバイオグループ
14	コーポレート・ガバナンス
16	社会・環境活動
17	役員
18	6年間の主要連結財務データ ファクトシート
20	主要子会社データ 会社概要
22	宝ホールディングスの歴史

わたしたちTaKaRaグループは、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオテクノロジーのイノベーションを通じて、食生活や生活文化の充実、ライフサイエンスの発展に貢献しています。

持株会社・宝ホールディングスの傘下には、酒類事業や調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループがあります。これに加えて、2006年9月には機能性食品事業の成長を加速させるため、宝ヘルスケアを新たに設立しました。

新体制により、各事業をさらに強化し、TaKaRaグループの企業価値を向上させていきます。

TaKaRaグループは現在、2001年から2010年までの10年間の長期経営構想「TaKaRa Evolution-100 (TE-100)」において、企業の経済的価値と文化的価値との双方を向上させ、真の企業価値 (value) を高めることを経営目標に、酒類事業や調味料事業で安定した収益基盤を作り、バイオ事業と機能性食品事業で、飛躍的な成長を遂げることを目指しています。いずれも、人々の豊かで健康的な暮らしに密接につながる事業であり、わたしたちTaKaRaグループの存在意義、社会的責任はますます大きくなっています。経営陣・社員一同はこれを肝に銘じ、日々の企業活動に邁進しています。



将来見通しに関する注意事項

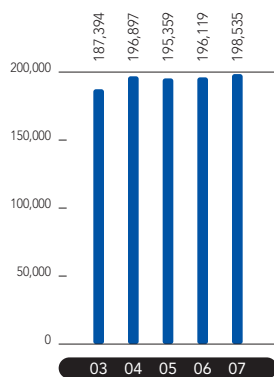
この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

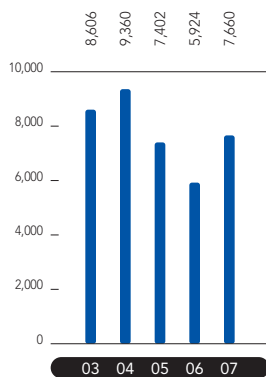


TaKaRaグループ

売上高
(百万円)



営業利益
(百万円)



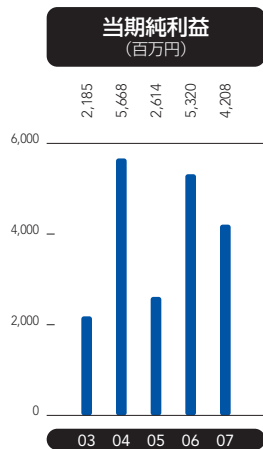
好調に推移した2007年3月期

2007年3月期（以下、当期）は第6次中期経営計画の2年目に相当します。過去2年間の収益拡大に向けた取り組みの成果が徐々に表れるとともに、今後の方向性が一層明確になった年だと認識しています。宝ホールディングス連結（以下、TaKaRaグループ）の当期の業績は、売上高1,985億35百万円（前期比1.2%増）、営業利益76億60百万円（同29.3%増）、経常利益78億46百万円（同32.3%増）、当期純利益42億8百万円（同20.9%減）となりました。当期純利益は、前期に持分変動利益等により特別利益が大きく発生し、当期はそれが通常ベースに戻ったことにより、減益となりましたが、その影響を除けば、微増収かつ大幅増益と総括できる決算です。これを、主要な事業グループである宝酒造グループとタカラバイオグループに分けて分析すると、次のとおりとなります。

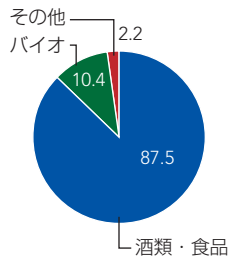
宝酒造グループは、2006年12月末に飲料事業から撤退したこともあり、当期の売上高は減収となりましたが、利益面では、付加価値の高い商品の開発と販売、また徹底したコスト管理等によって、2ケタの営業増益を達成しました。TaKaRaグループの安定収益源である宝酒造グループが、その力を取り戻すきっかけとなった1年といえます。一方のタカラバイオグループは、2005年9月に買収した米国クロンテック社が1年を通じて業績に寄与し、遺伝子工学研究分野の収益が拡大しました。これによりタカラバイオグループは、営業損失を大幅に縮小させるとともに、経常利益の黒字化を達成しました。収益基盤である遺伝子工学研究分野を強化することにより、タカラバイオグループが目指す姿に大きく近づいた1年となりました。



TaKaRaグループ

セグメント別売上高構成比
(2007年3月期)(%)

(外部顧客に対する売上高)



販売促進費の削減に成功

TaKaRaグループの基盤事業である国内酒類事業の市場環境は、飲酒人口の減少や消費者の嗜好の多様化等により、売上を容易に伸ばせない状況が続いています。さらに、2003年9月の規制緩和以降続いている流通構造の変化や、ここ数年の原材料価格の大幅な高騰等の影響もあり、各メーカーとも収益力の低下に見舞われています。

このような状況において、宝酒造グループは、当期、コスト管理で大きな成果が表れました。従来から、製造コストや管理コストには厳しい目を向け効率化に努めてきましたが、マーケティングコストは、厳しい市場環境のもと競争が激化していることもあり、増加の一途を辿ってきました。そこで2005年4月からの第6次中期経営計画では、利益マネジメントの徹底をテーマに、販売促進費の効率的な投下に取り組みはじめました。具体的には、販売促進費投下のルールを厳格化し、その遵守を徹底することや、営業マンが費用対効果を簡単に確認できるようなシステムを構築する等、運営面でのサポートを行う仕組みを構築しました。当期はこの仕組みを運用することで成果が表れ、販売促進費の増加に歯止めをかけることに成功し、宝酒造グループにおいて、3期ぶりの増益に転じることができました。

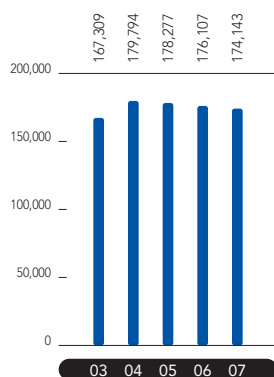
新たな中核商品としての期待が高まる「一刻者」

当期も引き続き、付加価値の高い本格焼酎“全量芋焼酎「一刻者」^{いっこもん}”が、好調に売上高を伸ばしました。宝酒造グループでは「一刻者」を戦略商品と位置づけ、プロモーション活動を強化し、新規料飲店の開拓に積極的に取り組んできましたが、最近では当社の営業マンが訪問していないお店でも、お取り扱いいただいているというケースが散見されるようになりました。これは、お店や消費者の皆様から、「一刻者が欲しい」と能動的にご用命をいただいているからだと推察できます。「一刻者」の品質面の優位性をきっちりと伝えていくことで、消費者の皆様からの確かな支持を得られ続けるよう、「一刻者」の育成に引き続き力を入れていきます。

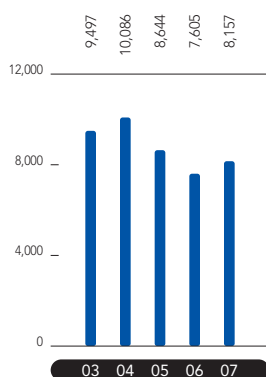


酒類・食品セグメント

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



また「一刻者」の好調は、社員に新たな成功体験と自信を植え付けています。宝酒造には清酒「松竹梅」、焼酎「純」、ソフトアルコール飲料「タカラcanチューハイ」、そして「タカラ本みりん」等、核となる商品があります。しかし、いずれも発売から20年以上を経ており、現在の中堅社員が入社した頃には、既に確立された商品ブランドとなっていました。2001年に発売した「一刻者」は、現在の若手・中堅社員が、ここまで育ててきた商品です。「一刻者」の成長は、ひいては社員の成長につながり、強固な企業体質を構築します。「一刻者」を中核商品に育成するとともに、また新たな中核となりうる商品の開発にも注力していきます。

成長の余地が大きい調味料・海外ビジネス

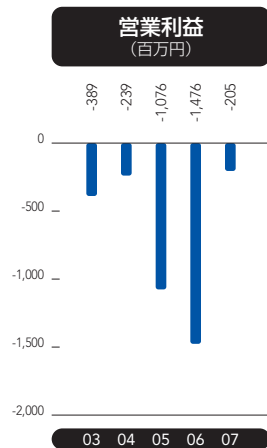
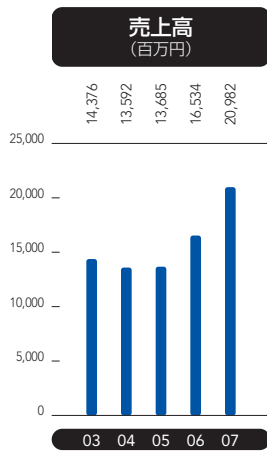
国内酒類事業の事業環境は厳しいものですが、調味料事業、海外事業については、成長の余地が大きい事業ととらえ、拡大に注力しています。

調味料事業においては、2006年4月に調味料加工業務用事業本部を立ち上げ、中食事業者向けの営業活動を本格化させました。また、加工業務用ブランド「京寶^{まようたから}」を立ち上げ、調理化学研究センターやクッキングラボにおいて新商品やレシピの開発を積極的に行っています。昨今の健康志向と核家族化により、中食マーケットの存在感はますます強まることでしょう。それをターゲットとする調味料事業は、成長余地が大きいと考えています。

海外事業は、欧米や中国・アジアにおける日本食の浸透度を見ると、その将来性にはますます期待がかかります。米国等では、日本食レストランでの消費にとどまらず、一般的なスーパーの店頭で清酒が並んでいたり、中華料理店で清酒が飲まれていたりします。将来的には、日本人が家庭でワインを飲むように、米国の一般家庭で清酒が飲まれるような日が来るかもしれません。米国のTakara Sake USA Inc.では、需要拡大に対応し、清酒の生産能力増強の投資を行う計画です。



バイオセグメント



タカラバイオグループにおける事業戦略の推進

当期のトピックスとして忘れてはならないのが、タカラバイオグループにおける経常利益黒字の達成です。これは、上場以来目指していた姿へ第一歩を踏み出した、ということを意味します。タカラバイオグループの事業戦略は、遺伝子工学研究分野と医食品バイオ分野の2つの事業分野で安定的に収益を築き、そこから生まれる収益を将来の成長事業である遺伝子医療分野に投下し、遺伝子医療技術を完成させ早期の商業化を目指すというものです。当期はこの前半部分の安定的な収益基盤を整えられた年だととらえています。今後は、この収益基盤をさらに磐石なものにするとともに、いよいよ次の一歩である、遺伝子医療分野に注力し、未だ世界中で実用段階にない、がんやエイズの遺伝子治療や細胞医療の実現に全力をあげて取り組んでいきたいと考えています。

機能性食品事業の成長を加速

また当期には、グループの事業を再編し、機能性食品の製品開発および販売を主な事業内容とする「宝ヘルスケア株式会社」を設立しました。宝ヘルスケアは、タカラバイオの健康志向食品の販売代理店として、タカラバイオから販売ルートと顧客を引き継ぎ活動していきます。

タカラバイオグループは、独自の先端技術を駆使して、日本古来の食材の科学的根拠を明確にし、その機能性食品素材を、他社製品と差別化を図った健康志向食品として製品化し、宝ヘルスケアが、宝酒造のマーケティング力、販売ノウハウを有効に活用することで、TaKaRaグループとして機能性食品事業の成長を加速させていきたいと考えています。

宝ヘルスケアは通信販売を主な流通チャネルとして、当面は、2010年3月期の営業利益黒字化をひとつのベンチマークとして、将来の成長事業となるように、確実に育成していきます。



会社の発展こそが株主全体の利益

TaKaRaグループは従来から、酒類・調味料事業で安定収益をあげ、バイオ事業の遺伝子医療分野で大きく飛躍するという青写真を描き、それに沿った施策を打ってきました。当期は、3期ぶりの営業利益増益を達成し、その方向性が現実になった1年であり、2008年3月期（今期）もこれを推し進めていきます。

宝酒造グループは、引き続き収益体質の強化に取り組めます。当期確立した利益マネジメントを継続し、そして今期は新たに、原材料価格の高騰等を背景にした、納入価格の見直し提案を行う等、さらに収益改善を推し進めます。また、「一刻者」に次ぐ付加価値の高い商品の投入準備も進めています。タカラバイオグループは、クロンテック社とのシナジー効果を追求することで、さらに遺伝子工学研究分野の収益力を高めるとともに、医食品バイオ分野の収益を改善し、遺伝子医療分野における研究開発を積極的に推進していきます。

TaKaRaグループは株主を重視した経営に努めていますが、一方で会社全体の発展なくして企業価値の増大、ひいては株主利益の拡大はありません。今はさらに事業を拡大・成長させていくことが、株主利益の拡大、今後の皆様への還元につながるかと考えております。引き続き、株主の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2007年7月
代表取締役社長

大 宮 久

株主、投資家の皆様へ

特集：機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：宝酒造グループ

事業概要：タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
フアクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

機能性食品事業の強化

宝ヘルスケア

TaKaRaグループは機能性食品事業を将来の成長事業とするために、機能性食品の製品開発および販売を主な事業内容とする「宝ヘルスケア株式会社」を設立しました。

これにより、TaKaRaグループの機能性食品事業の成長を加速させていきます。



宝ヘルスケア オンラインショップ
<http://shop.takara-healthcare.com/>



会報<LinTo>

グループ内の事業を再編

宝ホールディングスは、子会社である宝酒造の機能性食品事業と、タカラバイオの医薬品バイオ分野の健康志向食品事業とのシナジーを最大化するため、グループ内の事業を再編し、2006年9月に宝ヘルスケアを100%子会社として設立しました。

同社は、タカラバイオの販売代理店として、タカラバイオから販売ルートや顧客を引き継ぎます。また今後、タカラバイオが新規開発する製品の販売に加えて、アライアンス等を通し独自に機能性食品を開発、販売していきます。この再編により、タカラバイオが手掛けてきた健康志向食品事業に、宝酒造のマーケティング力、販売ノウハウを有効に活用することで、TaKaRaグループの機能性食品事業の成長を加速させたいと考えています。

今回の事業再編は一方で、タカラバイオと宝酒造の各事業の強化も図ります。タカラバイオでは、健康志向食品事業の販売機能を移管することにより、新規機能性食品素材の研究開発から製品化までのプロセスに特化した効率的な事業展開と、収益力の強化が図れます。宝酒造においては、この事業再編に伴い不採算であった飲料事業から撤退し、同事業に投下してきた経営資源を、国内酒類事業の収益力の向上や、調味料事業、海外事業の拡大に再配分します。これらの既存事業の強化も含め、グループ全体の企業価値向上を目指します。

宝ヘルスケアの事業内容

▶ 1. タカラバイオ製品の販売



ガコモ昆布フコイダン製品

明日葉青汁製品

寒天製品



▶ 2. タカラバイオとの共同開発製品の販売

▶ 3. 宝酒造由来を含む独自製品の開発・販売

宝ヘルスケアのミッション

宝ヘルスケア企業理念：

宝ヘルスケアはTaKaRaグループの持つ独自素材や技術を生かした、安心・安全な健康食品を、お届けすることを通して、人々の健康で、生き生きとした生活を応援します。

宝ヘルスケアは、タカラバイオが「医食同源」をコンセプトに開発を進めてきた、昆布「フコイダン」、寒天「オリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「ポリテルペン」等のTaKaRaグループが持つ独自素材の様々な生理活性を安心・安全な機能性食品としてお客様にお届けすることで、お客様の健康で生き生きとした生活を応援したいと考えています。そして、これらの機能性食品素材の持つ生理活性や効能・効果、製品の特徴等をお客様に十分ご理解いただくために、通信販売を最も重要な販路と位置づけ、さらにはドラッグストア等の対面販売が可能なルートを中心とした店頭販売を行うことによって顧客満足度を向上させていきたいと考えています。



明日葉青汁製品
テレビショッピング

宝酒造グループ

TaKaRaグループのコア事業である酒類・調味料事業の歴史は、1842（天保13）年までさかのぼります。以来160有余年にわたり、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏づけられた安心できる商品を提供することを使命に活動を続けています。

その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコール等幅広く展開しており、また日本国内のみならず、米国、中国、英国スコットランド等の子会社を通じて、グローバルな事業展開を行っています。



焼酎「JAPAN」、全量芋焼酎「一刻者」

焼酎：常に新たな市場創造を目指して

長年、焼酎のスペシャリスト企業として培ってきた独自の優れた技術によって、時代が求める焼酎を追求し、市場を創造し続けることで、焼酎市場のさらなる発展に貢献してきました。甲類焼酎では、発売以来30年のロングセラーを続ける“宝焼酎「純」”、スタイリッシュなデザインとまろやかな味わいが特徴の“焼酎「JAPAN」”等、ボトル焼酎の新たなカテゴリーを築いてきました。本格焼酎においては、独自製法による“全量芋焼酎「一刻者」”等、様々な原料での造りにこだわった焼酎を発売・育成し、伸長する本格焼酎市場においても確固たる地位を築いています。



清酒 松竹梅

清酒：「こだわり」とさらなる高品質を求めて

「松竹梅」は、時代の潮流を読んだ的確なマーケティング戦略により、慶祝・贈答市場におけるトップブランドとして磐石な地位を確立。「よるこびの清酒」として高品質なイメージを守り続け、成長を遂げてきました。また、ソフトパック市場においても“松竹梅「天」”を発売。差別化した酒質と榊莫山氏作の書画を採用したデザインも好評で、多くのお客様に支持されています。高品質清酒を製造する「白壁蔵」では「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追求し、造りや原材料にこだわり、お客様に納得いただける高品質で個性的な商品を提案しています。

株主、投資家の皆様へ

特集：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
フアクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史



ソフトアルコール飲料

ソフトアルコール飲料： お客様のニーズにお応えするチューハイをご提案

1984年、衝撃的なデビューを飾った“タカラcanチューハイ”。厳選された「焼酎」「果汁」「水」と確かな技術に裏づけられた、こだわりの品質は、お客様からの絶大な支持により発売から20年を超えるロングセラー商品となりました。2006年3月には、“TAKARA「焼酎ハイボール」”を発売。昭和20年代の東京下町で生まれた、チューハイの原点とされる「焼酎ハイボール」の味わいを追求した缶入りチューハイです。食事とともに楽しめるドライな味わいで、お客様の飲用シーンを広げます。そのほか、果汁の産地や搾汁方法にこだわった“タカラcanチューハイ「直搾り」”等、様々なお客様のニーズにお応えする高品質商品を開発、育成しています。

トピックス①

ますます人気が高まる本格焼酎 全量芋焼酎「いっこもん一刻者」



「一刻者」サイト「ikkomon.jp」
<http://ikkomon.jp/>

宝酒造は「本物志向」に対応し、つくり手の愛情や手造り感あふれる芋焼酎の開発を目指してきました。2001年9月には、独自の製法で開発した全量芋焼酎「いっこもん一刻者」を発売。香りが高く、上品でまろやかな味わいが好評を博し、年々人気が高まっています。

「一刻者」とは鹿児島の方言で「頑固者」という意味です。宝酒造独自の製法で、造りに頑固にこだわった商品となっています。一般的な芋焼酎は、米麴が使われており、芋麴の製造は非常に難しいとされていました。他社でも芋原料100%の焼酎は数銘柄ありますが、芋麴は発酵の進みが悪く香味が単調になる等の難点がありました。これを、様々な酒類を扱うことによって蓄えられてきた宝酒造の技術力で打破し、焼酎造りに適した芋麴を完成させたのです。その仕上がりは、芋が本来持つ風味だけが残ったため、雑味のない上品で香りの良いお酒になりました。また、醪（もろみ）の発酵もよく、適度にまろやかな味わいが出来上がりました。

今後も、「一刻者」の品質面の優位性をきっちりと伝えていくことにより、さらにブランド価値を高めていきます。

株主・投資家の皆様へ

特長：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラハイオクグループ

コーポレート・ガバナンス

社会：環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
フアクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史



調味料

タカラ本みりん「純米」
タカラ本料理清酒

調味料：お酒のチカラでもっとおいしく

古くから世界各地で使われてきた「調味料」としてのお酒のチカラに着目し、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な商品をご提案しています。江戸時代に誕生した“タカラ本みりん”は日本料理に欠かせない調味料としてお客様にご支持いただき、本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けています。また“タカラ本料理清酒”は、素材の生臭さを消し、料理に深いコクを与える「料理のための清酒」としてご愛用いただいています。そのほか、「京寶^{きょうたから}」ブランドをはじめとする加工業務用調味料を取り揃え、伸長する中食市場へも「お酒のチカラ」を活かした調味料をご提案しています。



Takara Sake USA Inc.
のテイस्टィングルーム

海外：ネットワークを活かして海外市場へ

米国には清酒「松竹梅」やみりん、梅酒を製造・販売するTakara Sake USA Inc.と、スーパープレミアムバーボン“ブランドン”を扱うAge International, Inc.があり、中国には清酒「松竹梅」やみりん、焼酎を製造・販売、および日本からの輸入製品の販売を行う宝酒造食品有限公司、グループ会社の洋酒の輸入販売を行う上海宝酒造貿易有限公司があります。欧州では英国にてスコッチウイスキーの製造・販売を行うThe Tomatin Distillery Co., Ltd.、また欧州での販売拠点として英国と仏国に営業事務所があります。これらのネットワークを相互に活用・補完することで、より効果的な活動を目指すとともに、新たな事業も展開していきます。

トピックス②

「白壁蔵」— より高品質を目指し、
匠の技と先端技術を融合

「白壁蔵」外観

日本有数の酒どころ、灘。この地で宝酒造は1954年から清酒を造り続けています。2001年には、伝統的な手造りの技と最新鋭の設備を併せ持つ「白壁蔵」を完成させ、純米酒や吟醸酒を中心に製造しています。

本当に旨くてよい酒とは何か…。「白壁蔵」では、効率を優先するのではなく、酒造りの原点に立ち返り、3年という歳月を費やして蔵づくりから始めました。伝統的な手造りの原理を再現した新しい設備での酒造りと、それとは対照的にほとんどを人の手で行う酒造り。それら両方を併せ持つのが「白壁蔵」です。たとえどれだけ機械が進化しようとも、やはり最終的な判断を下すのは人間です。杜氏はすべての運転条件を決め、蔵人はすべての工程で五感を使って状態を確かめ、連携しながら志の高い酒造りを行っています。



松竹梅白壁蔵「三谷藤夫」
＜山麿純米＞(左)・＜山麿吟醸＞(右)

タカラバイオグループ

TaKaRaグループのバイオ事業の使命は、バイオテクノロジーを通して人々の暮らしに貢献することです。バイオテクノロジーの研究によって生み出される遺伝子医療は、人々の健康と生命を守るためにあります。その実現のため、タカラバイオグループでは、技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究分野」を成長させ、「医食品バイオ分野」を第2の安定収益事業に育成し、「遺伝子医療分野」に経営資源を投入することで、遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。



リアルタイムPCR関連製品



リアルタイムPCR実験風景

遺伝子工学研究分野

バイオテクノロジー分野の研究開発に必須な研究用試薬や理化学機器の製造・販売、研究受託サービス等を手掛けています。

研究用試薬・理化学機器においては、遺伝子増幅法として幅広く利用されているPCR法に関するライセンスを受け、世界で最高レベルの伸長速度を持つPCR酵素等のPCR関連製品や、リアルタイムPCR関連製品等を製造・発売しています。また、2005年9月に買収した米国クロンテック社を中心とした分子生物学分野の製品開発や、欧米メーカー製品の導入販売等により、バイオテクノロジー全般にその対象領域を広げ、売上拡大を目指しています。さらに、試薬・機器の販売にとどまらず、大規模シーケンシング能力を活かしたゲノムの配列解析や、DNAチップ技術等を用いた遺伝子の機能解析の研究受託サービス等、様々な研究を受託するサービスを行っています。

今後も、遺伝子関連の研究開発を支えるPCR関連技術をはじめ、RNA分解酵素やコールドショックベクター法等を活用した新規技術・製品・サービスに注力していきます。そして、タカラバイオとクロンテック社との研究開発における相乗効果や効率化を図ることで、コアビジネスである遺伝子工学研究分野の基盤を強化し、さらなる収益拡大を目指します。

株主・投資家の皆様へ

特長：
機能性食品事業の強化
至・ヘルシケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
フアクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史



ガゴメ昆布のヌメリ成分（フコイダン）



明日葉「カルコン」

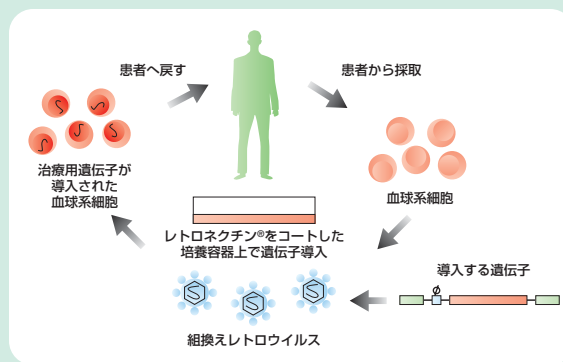
医食品バイオ分野

「医食同源」のコンセプトのもと日本古来の食材をバイオテクノロジーの目で見つめなおし、その機能を解明し、健康志向食品として消費者の皆様にお届けしています。これまでに、昆布「フコイダン」、寒天「オリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「ポリテルペン」等の生理活性成分を発見し、他社製品と差別化を図った健康志向食品の開発に注力しています。2006年9月には、販売機能をグループ会社の宝ヘルスケア社に移管することで健康志向食品事業の拡大を加速させるとともに、タカラバイオは、新規機能性食品素材の研究開発から製品化までのプロセスに特化し、経営資源の集中および収益力の強化を図っています。

キノコ関連事業においては、1970年にブナシメジの大規模栽培に世界に先駆けて成功し、現在ではハタケシメジとホンシメジの大規模栽培法を確立、雪国まいたけ社や沖縄県金武町との連携等により事業の拡大を推進しています。さらに、タカラバイオはマツタケゲノムの解析に成功し、マツタケゲノムを活用した高付加価値キノコの新規栽培法の確立を目指しています。

トピックス①

レトロネクチン法を用いた 体外遺伝子治療



レトロネクチン®を用いる遺伝子治療プロトコル

レトロネクチン®とは、ヒトフィブロネクチンを改良した組換えタンパク質です。標的細胞とウイルスベクターの両者に対して特異的相互作用を持つことにより、レトロネクチン®上で、レトロウイルスと標的細胞が密接に接触し、遺伝子導入効率が上がると考えられています。レトロウイルスベクターを用いた高効率遺伝子導入法であるレトロネクチン法は、様々な医療機関や民間企業、42施設での遺伝子治療臨床研究で採用されており、体外遺伝子治療のスタンダードになりつつあります。



レトロネクチン® (GMPグレード)

遺伝子医療分野

遺伝子工学で培われたテクノロジーの応用分野として、遺伝子医療（遺伝子治療、細胞医療）に必須な先端技術を開発し、その商業化を目指しています。

遺伝子医療分野におけるタカラバイオの中核技術は、米国インディアナ大学と共同開発したレトロネクチン法であり、タカラバイオは全世界における独占的实施権を保有しています。レトロネクチン法は、体外遺伝子治療の際に使われるもので、これまで難しいとされてきた造血幹細胞等の血球系細胞への高効率遺伝子導入を可能としました。レトロネクチン法は、様々な公的な医療機関での遺伝子治療臨床研究で採用されており、海外の民間企業が行っている遺伝子治療臨床試験にも利用されています。今後も積極的に全世界にライセンスアウトしていくことで、技術の普及と収益の拡大を目指します。

さらに、タカラバイオは自社プロジェクトとして、保有技術をベースに、伊国モルメド社、国立がんセンター、三重大学等と提携し、がんとエイズの体外遺伝子治療の臨床開発を進めています。また細胞医療においては、宝日医生物技術（北京）有限公司および中国医学科学院がん病院と提携し、レトロネクチン®を用いたがん免疫療法の臨床開発を推進しています。

トピックス② タカラバイオグループで実施している 臨床開発プロジェクト

タカラバイオグループでは、レトロネクチン法のライセンスアウトにとどまらず、自社グループにおいて、がんとエイズを対象にした遺伝子医療の研究開発および臨床開発を進めています。

遺伝子治療

	対象疾患	地域	提携先
HSV-TK遺伝子治療	白血病	日本	国立がんセンター
TCR遺伝子治療	食道がん	日本	三重大学大学院医学系研究科
MazF遺伝子治療	エイズ	中国	国立エイズ性病予防管理センター
		日本	医薬基盤研究所 霊長類医学科学研究センター

レトロネクチン拡大培養法を用いた、がん免疫療法

	対象疾患	地域	提携先
がん免疫療法	腎がん	中国	中国医学科学院がん病院
がん免疫再建療法	難治性がん	日本	三重大学大学院医学系研究科

株主・投資家の皆様へ

特長：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
ファクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

TaKaRaグループは、「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて 人間の健康的な暮らしと 生き生きとした 社会づくりに貢献します」という企業理念のもと、企業としての社会的責任を果たし、当社をとりまく様々なステークホルダーから信頼されることによって、持続的な企業価値向上が可能となると考えております。このような認識のもと、当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題ととらえ、その充実に努めています。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ①グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ②会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

コーポレート・ガバナンス体制の状況

2007年6月28日現在、当社の取締役会は8名で構成されており（うち社外取締役は1名）、監査役制度を採用しております。監査役は5名、うち3名は社外監査役です。当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や重要書類の調査を通じて、取締役の意思決定状況や職務執行の適法性を監査するほか、内部監査部門である監査室のスタッフと連係して当社および当社の子会社の往査を行い、適法性・準則性の観点から監査を行っております。また、会計監査人（監査法人トーマツに委嘱）と年に数回会議を行い、相互に監査計画の説明や、原則四半期毎の監査の実施状況報告を行うとともに、毎決算期末には、当該年度の監査の総括報告を行い、情報の共有化を図っております。

コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2007年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社（東証マザーズ、コード番号4974）の議決権の71.1%を所有する親会社であります。当社と同社の関係は以下の通りであります。

①当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置づけ

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立いたしました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっております。

当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社34社および関係会社10社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置づけ、当社グループとしてバイオ事業を推進しております。

②当社のグループ会社管理について

当社は、連結経営管理の観点から「グループ会社管理規程」を定め運用しておりますが、その目的はグループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることにあります。タカラバイオ株式会社についても同規程を適用しており、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けておりますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社が独自に事業運営を行っております。

また当社は、「グループ戦略会議」、「バイオ連絡会議」等の会議体を設けており、タカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めておりますが、これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

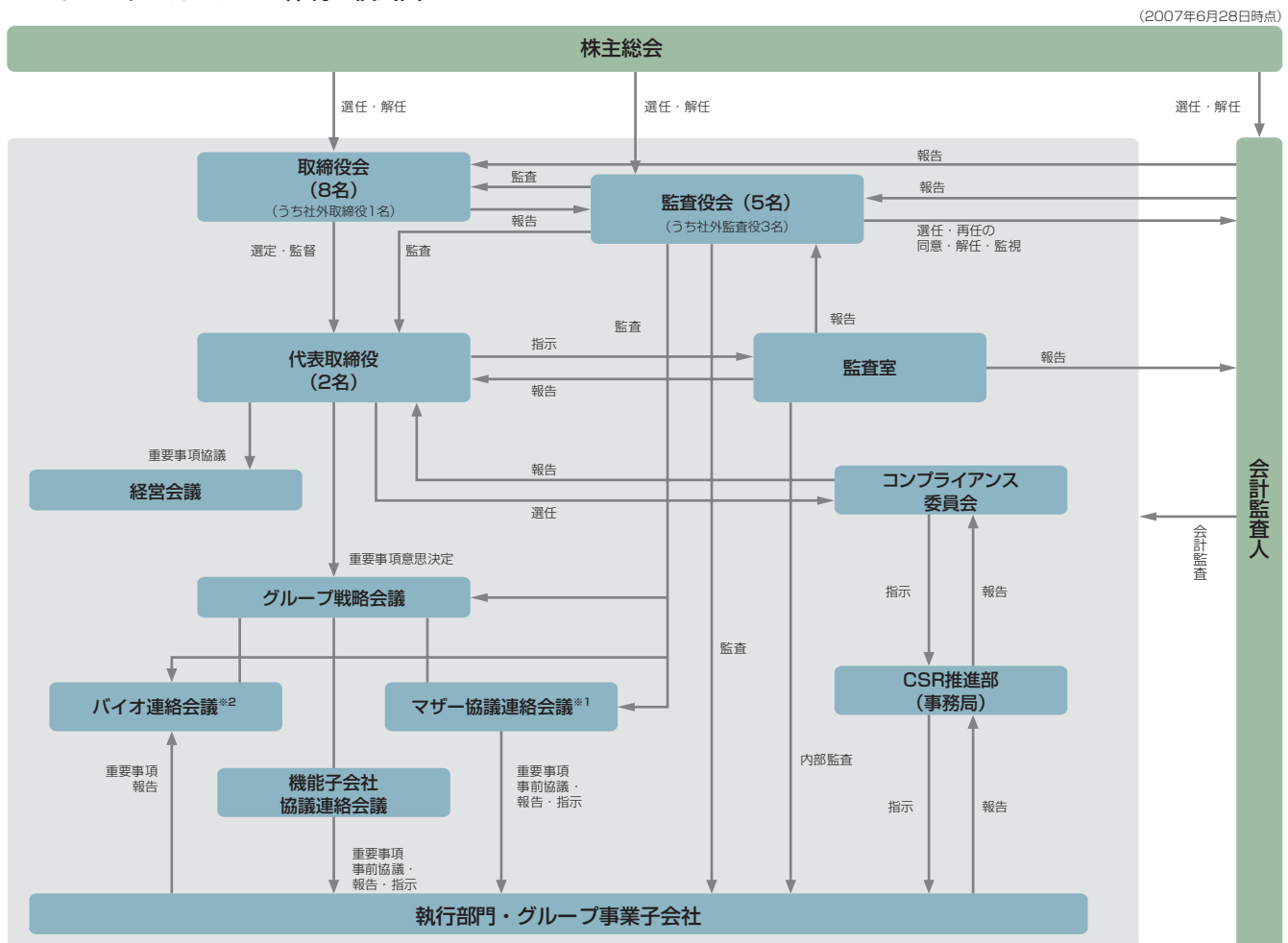
当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針（買収防衛策）について

当社は、2006年5月15日の当社取締役会決議により、企業価値、ひいては、株主皆様の共同の利益を確保し、または向上させることを目的に、「当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針（買収防衛策）」を導入しました。

しかし、株主の皆様の意思をより多く反映させることが株主の皆様の共同の利益の最大化に資するとの考えから、2007年5月15日開催の当社取締役会において、買収防衛策の導入を当社の株主総会にお諮りして株主の皆様の決議に付すこと、および、対抗措置発動の判断は、原則として当社の株主総会での決議をもって執り行うこと、といった内容を有する買収防衛策に変更することを決議いたしました。その内容につきましては、当社ホームページ（<http://www.takara.co.jp/>）ならびに有価証券報告書、当アニュアルレポートのMDAにおいて概要を掲載しておりますのでご参照願います。

なお、2007年6月28日開催の当社第96回定時株主総会において、当買収防衛策の導入が承認可決されております。

コーポレート・ガバナンス体制 模式図



*1 マザー（酒類・食品事業）協議連絡会議 *2 バイオ（バイオ事業）連絡会議

みなさまに「いきいき」をお届けする企業であり続けるために 社会や地球にやさしい「緑字企業」へ

TaKaRaグループは、水や農作物等の自然の恵みをうけて事業活動を行っています。豊かな自然環境なくしては事業が成り立たないことから、古くから自然環境に配慮する企業精神が受け継がれ、自然保護活動や環境負荷削減活動に積極的に取り組んできました。

お客様の「いきいき」のために

宝酒造では、ISO9001品質マネジメントシステムの認証を全工場にて取得しており、品質の確認できた原材料のみを使用する等、確かな品質管理体制のもと、安全で安心できる商品をお客様にお届けしています。

また、中身のみを販売するはかり売りの実施や、容器を再利用できるリターンブルびんの採用、分別作業が容易なエコペットの開発等、お客様と協力して容器の4R（リフューズ：発生回避、リデュース：減量化、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）の推進に取り組んでいます。

さらに、酒類を製造販売する企業の重要な責任として、お客様の健康を考えた様々な適正飲酒の推進活動を行っています。



<変更前：取っ手あり> <変更後：取っ手なし>
2.7ℓエコペットの例



はずせるキャップ



適正飲酒に関する注意表示

社会の「いきいき」のために

宝ホールディングスは、1985年に公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動、そこに生息する生物を保護するための研究等に対して助成を行い、2006年で21年目を迎えました。第1回からの助成先件数はのべ230件、助成金累計額は1億1,025万円、地域は40都道府県に広がります。

また2004年4月、宝酒造において、お米作りの体験や田んぼ周辺の自然観察を通して、自然の尊さや社会ルールを親子で学ぶ「TaKaRaお米とお酒の学校」を開校し、2006年で3回目を迎えました。その他にも、各種社会貢献活動への協賛や、地域の清掃等のボランティア活動等、幅広い活動を行っています。



TaKaRaハーモニストファンド



TaKaRaお米とお酒の学校

地球の「いきいき」のために

宝酒造では、事業活動は基本的に地球環境に負荷を与える行為であるということを実感を受け止め、地球環境への負荷軽減や自然保護活動、ボランティア等の社会貢献活動を、企業としての責務と考えています。そして、これらの活動成果を「緑字決算」という形で表現し、1998年以来、広く社会に公表し続けています。「緑字決算」は、様々な環境負荷や環境配慮、社会活動の中から重要な項目を選定し、その改善度を総合的な収支決算として“ECO（エコ）”という指標で分かりやすく表しています。



緑字決算をはじめ、宝酒造のCSRの取り組みを表した「緑字企業報告書2006」

株主、投資家の皆様へ

特集：機能性食品事業の強化
宝ヘルステア

事業概要：宝酒造グループ

事業概要：タカラハイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
ファクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

役員

2007年6月28日現在



宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長
兼 宝酒造株式会社 代表取締役社長
兼 タカラバイオ株式会社 取締役会長

大宮 久



宝ホールディングス株式会社 代表取締役副社長
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長

大宮 正



タカラバイオ株式会社 代表取締役社長
兼 宝ホールディングス株式会社 取締役

加藤 郁之進

宝ホールディングス株式会社

取締役	後藤 功	(兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長)
取締役	矢野 雅晴	(経営企画担当・CSR担当 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役	松崎修一郎	(経理担当・IR担当・財務担当・経理部長・IR室長・財務部長 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役	岡根 孝男	(総務人事担当・環境広報担当・総務人事部長 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役(社外取締役)	植田 武彦	(兼 宝酒造株式会社 取締役)
常勤監査役	関山 秀人	
常勤監査役	釜田 富雄	
監査役	市田 之彦	
監査役	太田 芳枝	
監査役	中條 毅	

株主・投資家の皆様へ

特長：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
ファクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

6年間の主要連結財務データ

3月31日終了事業年度

	単位：百万円						単位：千円ドル
	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2007
期間項目：							
外部顧客に対する売上高	198,535	196,119	195,359	196,897	187,394	183,638	1,682,500
酒類・食品セグメント	173,642	176,107	178,068	179,675	167,188	164,792	1,471,542
バイオセグメント	20,574	16,490	13,671	13,560	14,338	14,312	174,355
その他セグメント	4,318	3,520	3,618	3,661	5,867	4,533	36,593
売上原価	122,325	120,132	119,114	119,023	114,617	112,482	1,036,652
売上総利益	76,210	75,986	76,244	77,874	72,776	71,155	645,847
販売費及び一般管理費	68,550	70,062	68,841	68,514	64,169	62,460	580,932
営業利益	7,660	5,924	7,402	9,360	8,606	8,695	64,915
税金等調整前当期純利益	7,660	7,876	6,813	10,453	6,232	7,173	64,915
当期純利益	4,208	5,320	2,614	5,668	2,185	3,481	35,661
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	6,692	6,755	6,393	6,427	6,627	6,443	56,711
資本的支出	3,617	5,633	6,511	5,243	7,269	10,065	30,652
研究開発費	3,593	3,574	3,353	3,127	3,591	3,699	30,449
期末項目：							
総資産	213,393	212,466	190,773	189,416	175,830	179,702	1,808,415
有利子負債残高	39,083	39,330	40,347	41,560	38,854	28,331	331,211
純資産	115,570	—	—	—	—	—	979,406
自己資本	102,507	101,839	89,478	88,006	79,888	83,714	868,703
1株当たり（単位：円）：							
当期純利益	19.44	24.39	11.74	25.93	9.76	16.05	0.16
配当金	7.50	9.00	7.50	7.50	7.50	7.50	0.06
指標（単位：%）：							
総資産当期純利益率	2.0	2.6	1.4	3.1	1.2	1.9	
自己資本当期純利益率	4.1	5.6	2.9	6.8	2.7	4.1	
自己資本比率	48.0	47.9	46.9	46.5	45.4	46.6	

注 1. 百万円未満は切り捨てにより算出しております。

2. 米ドルは2007年3月31日現在のレートの近似値118円/ドルで便宜換算しております。

3. 事業区分の変更

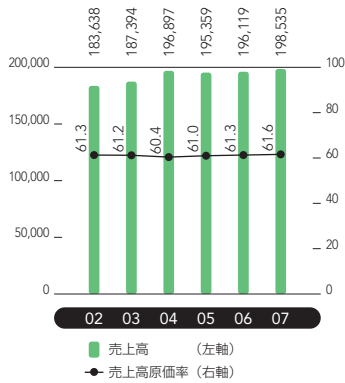
2002年4月1日の会社分割に伴い、2003年3月期より、より会社分割後の経営実態の変化を反映した適切なセグメント情報を開示すべく、2002年3月期まで区分掲記しておりました「酒類・調味料」および「清涼飲料」セグメントを「酒類・食品」セグメントに統合し、また「その他」セグメントに含めておりました、酒類・食品事業における物流や資材調達等の事業も同じく「酒類・食品」セグメントに含めることといたしました。なお、2002年3月期については、一定の前提等をおいて、この新たなセグメント区分により算出したセグメント情報を掲載しております。

4. 2007年3月期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」および「貸借対照表の表示に関する会計基準の適用指針」を適用しております。それにより、2007年3月期より、従来の資本の部合計に少数株主持分を加えた額を純資産として記載しております。

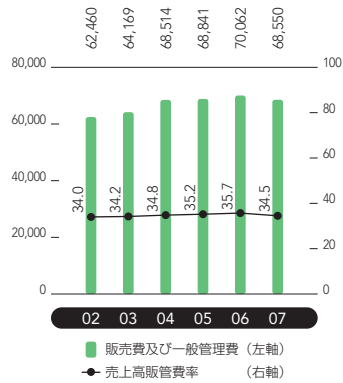
5. 2007年3月期の自己資本は、純資産－少数株主持分－新株予約権で計算しております。2006年3月期以前は、従来の資本の部合計を記載しております。

ファクトシート

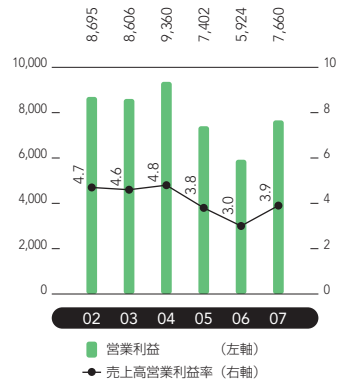
売上高・売上高原価率
(百万円・%)



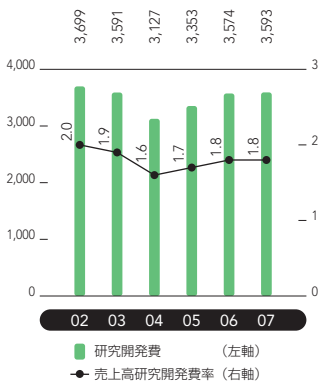
販売費及び一般管理費・売上高販管費率
(百万円・%)



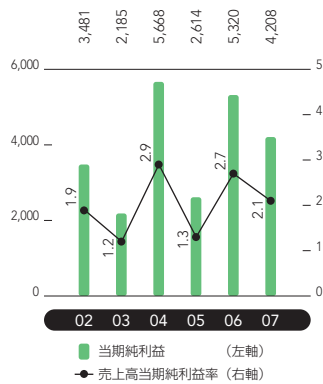
営業利益・売上高営業利益率
(百万円・%)



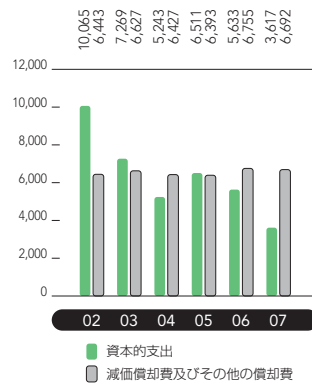
研究開発費・売上高研究開発費率
(百万円・%)



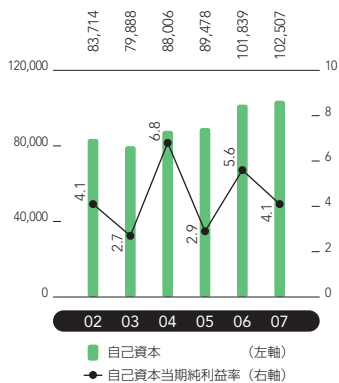
当期純利益・売上高当期純利益率
(百万円・%)



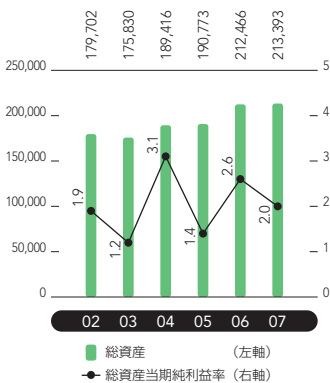
資本的支出・減価償却費及びその他の償却費
(百万円)



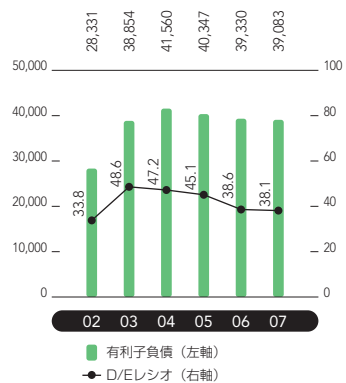
自己資本・自己資本当期純利益率
(百万円・%)



総資産・総資産当期純利益率
(百万円・%)



有利子負債・D/Eレシオ
(百万円・%)



D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本×100

株主・投資家の皆様へ

特長：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラハイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
ファクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

主要子会社データ

会社名	所在地	資本金	議決権の 所有割合	主な事業内容
宝酒造株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5110 【お客様相談室】 TEL 075-241-5111	1,000百万円	100.0%	酒類、酒糟、調味料、その他食品および 食品添加物の製造・販売
宝酒造株式会社の連結子会社				
タカラ物流システム株式会社	〒611-0041 京都府宇治市横島町目川173 TEL 0774-20-0761	50百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業、自動車整備業、 損害保険代理業、旅行業等
ティービー株式会社	〒611-0041 京都府宇治市横島町目川173 TEL 0774-20-0762	10百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業
長崎運送株式会社	〒850-8668 長崎県長崎市尾上町1番16号 TEL 095-823-0161	250百万円	(100.0%)	運送業、通関業、倉庫業等
小牧醸造株式会社	〒895-1816 鹿児島県薩摩郡さつま町時吉12 TEL 0996-53-0001	16百万円	(50.0%)	焼酎の製造・販売
株式会社 ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂5-2-39 TEL 03-3586-7501	80百万円	(100.0%)	ワイン輸入販売
タカラ物産株式会社	〒612-8031 京都府京都市伏見区桃山町松平筑前10-1 TEL 075-601-6267	10百万円	(100.0%)	飼料販売
タカラ容器株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9番地 TEL 075-605-4540	30百万円	30.0% (70.0%)	容器卸売業
株式会社 トータルマネジメントビジネス	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609番地 TEL 075-623-2660	20百万円	(100.0%)	広告代理業、マーケティングに関する調査、 販促企画、人材派遣事業、飲食店経営
USA Takara Holding Company (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	4,094千米ドル	(100.0%)	持株会社
Takara Sake USA Inc. (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	3,000千米ドル	(90.0%)	酒類製造・販売
AADC Holding Company, Inc. (米国)	229 W.Main St. Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	30米ドル	(100.0%)	持株会社
Age International, Inc. (米国)	229 W.Main St. Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	250千米ドル	(100.0%)	バーボンウイスキーの販売
The Tomatin Distillery Co., Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1808-511-234	3,297千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
J&W Hardie Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1808-511-234	250千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
宝酒造食品有限公司 (中国)	No.31 Nanyuan West St. Fengtai District, Beijing, People's Republic of China TEL 010-6791-1758	130,000千元	(62.0%)	酒類、酒糟、調味料の製造・販売、 宝グループ製品の輸入販売
上海宝酒造貿易有限公司 (中国)	19J, LiDuXinGui. No.831 Xinzha Road Shanghai, People's Republic of China TEL 21-6218-1383	200千米ドル	(100.0%)	宝グループ製品の輸入販売、 中国優良産品の輸出
Singapore Takara Pte. Ltd. (シンガポール)	16, Raffles Quay, #15-09 Hong Leong Building, Singapore TEL 421-9258	1,000千米ドル	(100.0%)	酒類の販売および投資活動
タカラバイオ株式会社	〒520-2193 滋賀県大津市瀬田三丁目4番1号 TEL 077-543-7200	8,976百万円	71.1%	医薬品、試薬、理化学機器、医療用具の製造・ 販売、遺伝子解析、医療に関する検査受託
タカラバイオ株式会社の連結子会社				
瑞穂農林株式会社	〒622-0313 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38番地	10百万円	(49.0%)	キノコ類の生産、販売
有限会社タカラバイオ ファームセンター	〒899-7306 鹿児島県曾於郡大崎町永吉4217	3百万円	(48.3%)	農産物・林産物の生産、加工並びに販売
株式会社きこのセンター金武	〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武9006番地	5百万円	(49.0%)	キノコ類の生産、加工、販売、生産技術指導、 種菌生産・販売、肥料や飼料の製造・販売等
宝生物工程（大連）有限公司（中国）	No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone, Dalian, 116600 China	2,150百万円	(100.0%)	研究試薬の製造・販売および関係技術 サービス
Takara Bio Europe S.A.S. (仏国)	2, Avenue du President Kennedy, 78100 Saint-Germain-en-Laye, France	600千ユーロ	(100.0%)	研究試薬の販売
Takara Korea Biomedical Inc. (韓国)	Lotte New T Castle 601, 429-1, Gasam-dong Gumchun-gu, Seoul, Korea	3,860百万ウォン	(89.4%)	研究試薬・理化学機器・バイオ医薬品の 販売、研究受託、遺伝子検査
Takara Bio USA, Inc. (米国)	510 Charmany Drive Madison, WI 53719, U.S.A.	200千米ドル	(50.0%)	米国におけるタカラバイオ製品販売、 遺伝子治療およびその関連技術の研究開発
宝日医生物技術（北京）有限公司（中国）	Life Science Park, 22 KeXueYuan Road Changping District, Beijing 102206 China	700百万円	(100.0%)	バイオ医薬の研究開発、バイオ研究用試薬、 理化学機器製造・販売、バイオ研究受託サービス
Takara Bio USA Holdings Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	70,000千米ドル	(100.0%)	持株会社
Clontech Laboratories, Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千米ドル	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売、 研究受託サービス等
宝ホールディングス株式会社の連結子会社				
宝ヘルスケア株式会社	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609番地 TEL 075-623-2317	90百万円	100.0%	機能性食品の製品開発・販売
大平印刷株式会社	〒600-8881 京都府京都市下京区西七条掛越町55 TEL 075-313-7141	90百万円	99.0% (1.0%)	印刷業
宝ネットワークシステム株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5139	30百万円	100.0%	情報システム開発・運用・管理
川東商事株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9番地 TEL 075-601-5211	30百万円	100.0%	酒類販売、不動産賃貸

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合。

株主、投資家の皆様へ

特集：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
フアクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

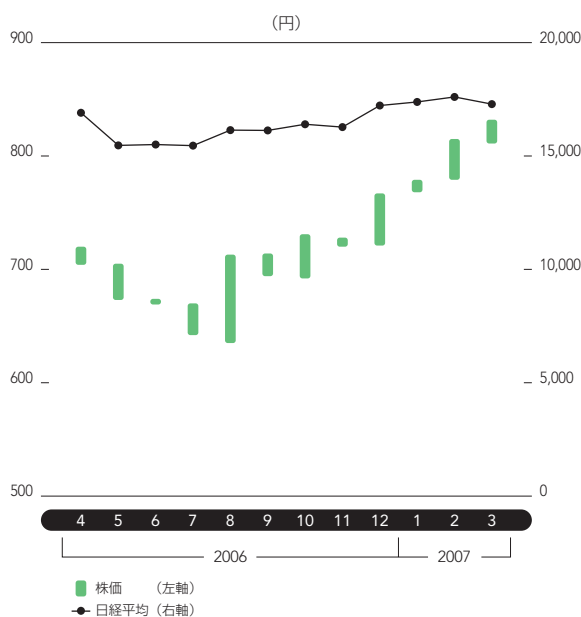
会社概要

2007年3月31日現在

宝ホールディングス株式会社

商号 宝ホールディングス株式会社
 事業内容 持株会社
 本店所在地 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
 電話 075-241-5130
 設立 1925年9月6日
 資本金 13,226百万円
 ホームページアドレス <http://www.takara.co.jp>

株価の推移



株主メモ

発行株式 授権株式数 870,000,000株
 発行済株式総数 217,699,743株
 株主数 37,476名
 上場取引所 東証1部、大証1部
 証券コード 2531
 証券代行 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社
 証券代行事務連絡先 〒135-8722
 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
 株主総会 定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されます。その他、必要のある場合には少なくとも2週間の事前通告をもって、臨時株主総会が開かれる場合があります。

大株主 (上位10名)

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の 割合(%)
株式会社みずほコーポレート銀行	9,738	4.47
農林中央金庫	9,500	4.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,624	3.96
明治安田生命保険相互会社	6,318	2.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,779	2.65
株式会社京都銀行	5,000	2.30
国分株式会社	3,134	1.44
三菱商事株式会社	3,000	1.38
住友信託銀行株式会社	2,753	1.26
ビー・エヌ・ピー・バリバ・セキュリティーズ (ジャパン) リミテッド (ビー・エヌ・ピー・バリバ証券会社)	2,735	1.26

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。
 2. 「住友信託銀行株式会社」の所有株式数には、信託業務に係る株式数は含んでおりません。

宝酒造株式会社

商号 宝酒造株式会社
 本社所在地 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
 電話 075-241-5110
 設立 2002年4月1日
 資本金 1,000百万円
 発行済株式数 20,000株
 大株主および
 所有株式数の割合 宝ホールディングス株式会社 100%
 代表者 代表取締役社長 大宮 久
 ホームページアドレス <http://www.takarashuzo.co.jp>

タカラバイオ株式会社

商号 タカラバイオ株式会社
 本社所在地 天津市瀬田三丁目4番1号
 電話 077-543-7200
 設立 2002年4月1日
 資本金 8,976百万円
 発行済株式数 281,377.87株
 大株主および
 所有株式数の割合 宝ホールディングス株式会社 71.1%
 代表者 代表取締役社長 加藤 郁之進
 ホームページアドレス <http://www.takara-bio.co.jp>

株主、投資家の皆様へ

特集：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝酒造グループ

事業概要：
タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
フアクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

宝ホールディングスの歴史

	酒類・調味料事業	バイオ事業
1925年	(大正14年) 宝酒造株式会社創立	
1949年	株式を上場	
1957年	ビール事業進出 (「タカラビール」発売)	
1967年	ビール事業撤退	
1970年	醗酵調味液「味しるべ」発売	大津市に中央研究所完成 フナシメジの人工栽培に成功
1977年	宝焼酎「純」を発売	
1979年	“カムバック・サーモン・キャンペーン” 開始	国産初の遺伝子工学研究用試薬「制限酵素」を発売
1983年	米国宝酒造株式会社を設立	
1984年	タカラcanチューハイ 発売	
1986年	「TaKaRa バービカン」発売	
1988年	宝焼酎「純」レジェンド発売	PCR法による遺伝子増幅装置の国内独占販売権獲得
1993年	「すりおろしりんご」発売 特定保健用食品として「カルシウムパーラー」認可	宝生物工程(大連) 有限公司を設立(中国大連市) 全世界にわたる広範囲のPCR関連特許ライセンスを取得
1994年	タカラcanチューハイ「デラックス」〈すりおろしりんご〉 〈あらしぼりオレンジ〉 発売	
1995年	合併会社、北京寛宝食品有限公司(現・宝酒造食品有限公司) 設立 TaKaRa CI基本デザインを変更	高効率遺伝子導入法であるレトロネクチン法を開発 TaKaRa Korea Biomedical Inc. を設立(韓国ソウル市)
1997年3月期		96年 4月 タカラアグリ株式会社を設立(03年8月タカラ バイオ(株)に吸収合併)
1998年3月期		97年 5月 遺伝子治療研究用試薬「レトロネクチン®」を全 世界で発売開始 97年12月 米国インディアナ大学においてレトロネクチン法 を用いた遺伝子治療の臨床試験研究を開始
1999年3月期	98年 9月 緑字決算報告書(現・緑字企業報告書)を発行 98年10月 ワイン事業に本格参入。カリフォルニアワインを 輸入・販売	98年 8月 DNAチップ作製装置と解析装置の販売を開始
2000年3月期	00年 3月 <伝承健康>梅肉エキス入り濃縮飲料 発売 00年 3月 OCIA認証「特撰タカラ有機本みりん」発売	99年 9月 DNAチップの販売を開始 00年 2月 韓国バイオベンチャー企業ViroMed社を実質的に 子会社化
2001年3月期	00年 4月 長期経営構想「TaKaRa Evolution-100 (TE-100)」スタート	
	01年 3月 株式会社ラック・コーポレーションの株式を取得 01年 3月 焼酎「ZIPANG」発売	00年 7月 高速ゲノム解析センター、ドラゴン・ジェノミクス 株式会社を設立(02年10月タカラバイオ(株)に吸 収合併) 00年 9月 等温遺伝子増幅法「ICAN法」を開発
2002年3月期	01年 9月 全量芋焼酎「一刻者」、黒麹かめ仕込 本格芋焼酎 「黒甕」、本格米焼酎 洞窟かめ貯蔵「巖窟王」発売 01年10月 清酒・特定名称酒の拠点として灘工場「白壁蔵」 完成	01年12月 組換えブレインテグレーション複合体法(rPIC法) を開発 02年 3月 コールドショック ベクター法を用いたタンパク質 発現システムを開発
2003年3月期	02年 4月 持株会社体制へ 持株会社 宝ホールディングス株式会社 設立	
	02年 4月 分社・持株会社化により宝酒造株式会社(現)設立 02年12月 琉球泡盛「茂登 炎(おもと ほむら)」発売 02年12月 杵岐麦焼酎「音波(おとほ)」発売	02年 4月 分社・持株会社化によりタカラバイオ株式会社設立 03年 2月 モルメド社と、がん自殺遺伝子治療、がんワクチン 遺伝子治療:2種の遺伝子治療技術のアジア独占実 施権について合意

	酒類・調味料事業	バイオ事業
2004年3月期	03年 8月 タカラ本みりん「純米」発売 03年 9月 松竹梅「天」発売 04年 3月 バーピカン<リアルテイスト>発売 04年 3月 「ファイバーパーラー」が特定保健用食品の表示許可を取得	03年 5月 米国Mirus社と合併会社Takara Mirus Bio Inc. (米国ウィスコンシン州)を設立 03年 5月 等温遺伝子増幅法ICAN法日本出願特許が成立 03年 5月 米国VIRxSYS社に遺伝子治療用レトロネクチン®のライセンスを供与 03年10月 タカラバイオ株式会社が第三者割当増資を実施 04年 1月 宝日医生物技術(北京)有限公司を設立(中国北京市)

2005年3月期	04年12月 タカラバイオ株式会社 東証マザーズ上場	
04年 8月	タカラ有機米料理清酒 発売	04年 8月 中国医学科学院がん病院と「がん免疫療法」共同臨床開発合意
04年 9月	そば焼酎「十割」～そば全量～ 発売	04年11月 飲む寒天<カロリーオフ>発売
04年 9月	しそ焼酎「若紫ノ君」発売	04年12月 マツタケのゲノム解析をホールゲノムショットガン方式で完了
05年 2月	松竹梅「生冷酒」<黒麹四段>辛口 発売	05年 1月 難治性白血病の原因のひとつであるFLT3遺伝子の変異に関する特許を日本、米国で取得
05年 3月	タカラcanチューハイ「本格辛口」発売	05年 3月 三重大学医学部に、難治性のがんを対象としたT細胞受容体(TCR)遺伝子治療の臨床開発を共同で推進するために、寄附講座を設置
05年 3月	長期貯蔵焼酎「秘蔵の扉」発売	
05年 3月	タカラcanチューハイ「WMIX」発売	

2006年3月期	05年 4月 TaKaRaグループ第6次中期経営計画 スタート	
05年 8月	本格米焼酎仕込「寶」京みりん 発売	05年 4月 フランス国立保健医学研究所のレンチウイルスベクターを用いた脳性副腎白質萎縮症の遺伝子治療臨床試験にレトロネクチン®を供給
05年 9月	松竹梅白壁蔵<山廃大吟醸>氷室蔵3年甕貯蔵、<山廃特別純米>氷室蔵3年甕貯蔵 発売	05年 5月 国立がんセンターと白血病の遺伝子治療臨床試験を目指した共同研究契約を締結
05年 9月	黒壁蔵 本格麦焼酎「熟」発売	05年 8月 一本鎖RNAの特定配列を認識して切断破壊する7種の新規RNA分解酵素を発見
05年 9月	宝チューハイ壺詰 発売	05年 9月 米国BD社からクロンテック事業を買収
05年 9月	白壁蔵 粕取焼酎「日の本」発売	05年12月 中国医学科学院がん病院と宝日医生物技術(北京)有限公司が、腎がんを対象とした細胞免疫療法の臨床試験を申請
05年10月	「京寶」加工業務用本みりんN 発売	06年 3月 リアルタイムPCR装置を発売
06年 3月	TAKARA「焼酎ハイボール」発売	
06年 3月	焼酎「JAPAN」発売	
06年 3月	全量芋焼酎「紅一刻」、同「黒一刻」発売	

2007年3月期	06年 9月 グループ内の事業を再編し「宝ヘルスケア株式会社」を設立	
06年 5月	和三盆梅酒、芋焼酎仕込梅酒 発売	06年 5月 RNA分解酵素(MazF)の発現系が遺伝子導入されたT-細胞にエイズウイルスを感染させるとエイズ感染細胞のみが細胞死しエイズウイルスが消滅することを実験的に確認
06年 8月	しそ焼酎「しそ小町」発売	06年 7月 難治性白血病の検査法に関する特許の独占的実施権(日本を除く)を米国インビボ・スクライプ社に供与
06年 8月	TaKaRa「おいしいチューハイ」発売	06年 7月 キノコ事業において(株)雪国まいたけと業務提携契約を締結
06年 8月	松竹梅白壁蔵<特別純米>雪中貯蔵、<純米吟醸>雪中貯蔵 発売	06年 9月 健康志向食品事業の販売機能を宝ヘルスケア(株)に移管
06年 9月	飲料事業の既存商品の販売中止を発表	06年 9月 メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター(米国)が行う慢性リンパ性白血病の遺伝子治療にレトロネクチン®を供給
06年 9月	黒壁蔵本格米焼酎「米全麹」発売	06年 9月 金武町(沖縄県)とブナシメジ事業において提携
06年 9月	松竹梅 花酵母仕込シリーズ 発売	06年12月 ピーター・マッカラムがんセンター(豪国)が行う多発性骨髄腫を対象とした遺伝子治療に、レトロネクチン®を供給
07年 3月	タカラcanチューハイ「直搾り」発売	06年12月 米国遺伝子工学用試薬メーカーのニューイングランドバイオラボ社にLA-PCR法のライセンスを供与
07年 3月	TaKaRa「Beauty Sparkling」発売	07年 3月 骨形成に必須なたんぱく質「活性型オステオカルシン」をブタ煮骨から抽出することに成功

*1997年3月期以降は、事業年度(4月1日～翌3月31日まで)での記載となっております。

株主・投資家の皆様へ

特長：
機能性食品事業の強化
宝ヘルスケア

事業概要：
宝ヘルスケアグループ

事業概要：
タカラバイオグループ

コーポレート・ガバナンス

社会・環境活動

役員

6年間の主要連結財務データ
ファクトシート

主要子会社データ
会社概要

宝ホールディングスの歴史

宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地

電話 (075) 241-5130

<http://www.takara.co.jp>



この印刷物は環境に考慮し、大豆インキ・水なしオフセット印刷で制作しています。また、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン（カラーユニバーサルデザイン）として認定されました。